

平成 27 年度第 2 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 27 年 6 月 24 日（水）10 時 00 分～12 時 06 分
場 所 宇都宮大学本部第一会議室
出席者 石田，飯村，上岡，観堂，須賀，角，増山，森，築
藤井，茅野，池田，加藤，田巻，伊東，石井，杉田の各委員
藤井監事，堀監事，夏秋副学長，松金学長特別補佐

議事に先立ち，平成 27 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会議事要録（案）を確認し，原案のとおり承認した。

[議 題]

1. 国立大学法人宇都宮大学学長選考会議の委員選出について 資料 1
学長から，資料 1 に基づき，国立大学法人宇都宮大学学長選考会議の委員について，板橋敏雄委員の辞任に伴い，同選考会議規程第 2 条第 1 項第 1 号委員（国立大学法人宇都宮大学経営協議会規程第 2 条第 5 号に規定する委員（学外委員）のうち，経営協議会において選出された者 8 名）が 1 名欠員となっているため，後任の委員を補充する必要があることが説明され，審議の結果，小林辰興委員が選出された。
なお，委員の任期は経営協議会委員としての任期である平成 28 年 3 月 31 日までとなる旨の説明があった。
2. 平成 26 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について 資料 2
藤井理事から，資料 2 に基づき，平成 26 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり，審議の結果，文部科学省への提出時までには修正等が生じた際は，役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。
3. 大学機関別認証評価自己評価書（案）について 資料 3
藤井理事から，資料 3 に基づき，大学機関別認証評価自己評価書（案）について説明があり，審議の結果，大学評価・学位授与機構への提出時までには修正等が生じた際は，役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。
4. 第 3 期中期目標・中期計画（案）について 資料 4
藤井理事から，資料 4 に基づき，第 3 期中期目標・中期計画（案）について説明があり，審議の結果，文部科学省への提出時までには修正等が生じた際は，役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。
(主な意見等)
 - ・ 全体的によくできているが人材育成に関するビジョンが足りないのではないか。社会的な変化が急速なため，実際のニーズと大学の考えに乖離があるようなので，もっと考えていることを明確にする必要がある。また，持続可能な地域社会の実現に向けて本学ができることは何かを考え，地域社会が求める質の高い，生産性の高い人材を輩出することが重要な使命であるので，地域社会を担う大学であることを大いに謳ってよいのではないか。
さらに，ICT の利用に触れているが，世の中は I O T に向かっており，今後は

ビックデータをどう活用するかが重要と感じている。

(本学：理念の明確化については今後議論させていただきたい。)

- ・ 地域貢献ということになれば、卒業後は地域に根ざして、地元就職して活躍してもらうことが重要である。県内の優れた中小企業に貢献し、地域を盛り立てるようなスタイルを目指す指標が入らないか。

また、地域企業の経営者との懇談会を年に数回実施するなど、交流する機会があれば地域の企業の良さを学生に知ってもらえるチャンスになり、地域創生活活性化に貢献しているということになるのではないか。

(本学：地域を担う人材育成への取り組みとして、新たに文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の補助金申請を行うこととしている。事業内容は栃木県、県内経済諸団体及び県内企業と連携し、地域を理解して地域産業の発展に貢献できる人材や栃木県に定着し栃木の魅力を開発し発信できる人材の育成のための「とちぎ学」を中心とした施策である。さらに県が推進する「フードバレーとちぎ」等に焦点をあてた人材育成により、人材の地元定着を進めるものである。また、地元の企業の方には実務家教員という形で協力をお願いする予定である。これを中期目標・中期計画にどう表現するかは検討させていただきたい)

- ・ 卒業生の県内就職が少ない。4年間栃木県にいたるのだから栃木に魅力を感じて就職してもらう。これは企業側にも責任があるが、もっと数字を増やすために、インターンシップのような事業等、何か具体的な施策を検討する必要があるのではないか。

(本学：卒業生の就職先を県内と県外で比較すると1:2の割合で県内が少ないが、最終的に出入りの数字を見ると県内定着は、20パーセント程度は純増している。問題は中身をどうしていくかである。地域のニーズとのマッチングや質的な問題等について、いただいた意見を参考にしながら取り組んでいきたい。)

- ・ グローバル化に関する目標値を見ると日本人学生の海外留学を200名としているが、重要な支援であるので是非推進していただきたい。また、留学に関連した英語教育で言えばTOEICでなくてTOEFLを入れた中期計画も必要ではないか。

(本学：TOEFLは教育プログラムとしては実施している。まずは全学的にTOEICによる英語教育を発展させ、今後、全体的なウエートの中で海外留學生の割合が高くなればTOEFLについても設定したい。)

- ・ 情報セキュリティの問題であるが、昨今の「新しいタイプの攻撃」への対策を考えると、従来の入口対策では限界があると言える。攻撃を受けた場合に組織への影響を回避するため、外部への通信を止めるなどの「出口対策」が重要であり、技術を活用し、モニタリングする仕組みが必要である。

(本学：情報セキュリティに関しては重要な課題と認識している。基盤システムの更新時期でもあるので、万全の対応をしたい。また、本学のIT基盤の中核を担う総合メディア基盤センターは情報セキュリティマネジメントの国際的な規格であるISO27001の認証を平成19年に全国の国立大学に先駆けて取得している。本センターの活動実績については後日紹介したい。)

- ・ 本中期目標・中期計画を公表する際には、メッセージを添えてはどうか。新学長のもと教職員一丸となって地域の最高学府として取り組むという姿勢が見えるようにしてはどうか。

(本学：是非検討させていただきたい。)

5. 平成 28 年度概算要求 (案) について **資料 5**

財務課長から、資料 5 に基づき、平成 28 年度概算要求 (案) について説明があり、審議の結果、プロジェクト分及び基盤的設備整備分の新規分に係る順位付け及び文部科学省との事前相談において調整等の必要が生じた際の対応については役員会に一任することとし、原案のとおり承認した。

6. 平成 26 年度決算 (案) について **資料 6**

財務部長から、資料 6 に基づき、平成 26 年度決算 (案) について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

[報告事項]

1. 監査報告書について **資料 7**

藤井監事及び堀監事から、資料 7 に基づき、監査報告書の概要について報告があった。

2. 平成 26 年度期末監事監査報告書について **資料 8**

藤井監事及び堀監事から、資料 8 に基づき、平成 26 年度期末監事監査報告書について報告があった。

(主な意見等)

- ・ 指摘に対するフォローはどのように考えているのか。

(監事：指摘に対し、中間監事監査において確認していきたい。また、年度末に学長から取組状況の報告を受けており、併せて、引き続き取り組むべき事項について再確認するとともに、大学改革やミッションの再定義と相まった計画的達成をお願いしている。)

3. 平成 27 年度宇都宮大学監事監査計画について **資料 9**

藤井監事及び堀監事から、資料 9 に基づき、平成 27 年度宇都宮大学監事監査計画について報告があった。

4. 「グローバルサイエンスキャンパス」の平成 27 年度募集に係る選定結果について

資料 10

茅野理事から、資料 10 に基づき、「グローバルサイエンスキャンパス」の平成 27 年度募集に係る選定結果について報告があった。

5. 学生数及び外国人留学生数 (平成 27 年 5 月 1 日現在) について **資料 11**

茅野理事から、資料 11 に基づき、学生数及び外国人留学生数 (平成 27 年 5 月 1 日現在) について報告があった。

6. 平成 26 年度大学卒業・大学院修了者の就職等進路状況について **資料 12**

茅野理事から、資料 12 に基づき、平成 26 年度大学卒業・大学院修了者の就職等進路状況について報告があった。

7. その他

参考資料

学長から、参考資料に基づき、平成 27 年 4 月から 6 月における本学関係記事について紹介があった。

以 上